

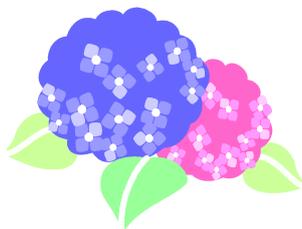
校訓 「正直 勤勉 愛語 進取」 令和元年 6月 4日



笠野小学校だより 6月

ぬくもりのある学校づくり 第3号 校長 中谷 昭代

Tel 288-8651 Fax 288-8652 kasano-es@m2.spacelan.ne.jp



五月雨の 晴れ間に出でて 眺むれば 青田すずしく 風わたるなり (良寛)

五月雨(梅雨)の晴れ間に、外に出て眺めてみたら、青々と広がる稲の田に初夏の風が涼しげに吹き渡っているよ。

笠野地区に広がる田園風景にも、さわやかな風が吹き渡り、日々緑が濃く、輝きを増しています。

6月は、「水無月」(みなづき)とも呼ばれていますが、梅雨で雨が多く降る月なのでどうして「水の無い月」なのでしょう。元々は「無」は当て字で、「水の月」という意味だそうです。それを聞いて納得しました。梅雨は、「梅の実が黄色く染まる頃に降る雨」。梅の実のフルーティーな香りとともにみずみずしさを感じる6月です。雨の日とはかく過ごしにくさを感じがちですが、今年の春は雨が少なかったので、雨は田畑に潤いを与える恵みの水、「実りの基」となります。笠野っ子も多くの実りを得るために、心にも体にも脳にもたっぷり潤いを蓄え、「日々の学びを確実にする」という「実りの基」を積み重ねていってほしいと願っています。

6月は、津幡町の器械運動交歓会や音楽会、そして、待ちに待ったプール開きもあります。「小学生は9時間睡眠」を確保して日中の疲れを取って、6月を元気に乗り切り、楽しい夏を迎えたいと思います。

6月9日(日)は「町づくり美化大作戦」と本校での奉仕作業を、6月17日(月)は授業参観、試食会と太鼓発表会を予定しています。保護者の皆様や地域の皆様のご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

和と洋のコラボレーション「情熱でんでこ」

6月19日(水)14:00より、津幡町小学校音楽会がシグナスホールで開催されます。(今年からは河北郡市の音楽会は開催せず、各市町での開催となります。)笠野小学校の演奏順は一番目、トップバッターです。今年は、太鼓の七黒学先生のかねてからの願いであった、和と洋のコラボレーション、「情熱でんでこ」に挑戦します。「情熱大陸」の軽快でリズムカルな演奏も練習を重ねる毎に上達してきました。3・4年生も笠野の響き「でんでこ太鼓」の伝統をしっかりと受け継ごうと情熱を込めて練習しています。この成果を、まず、6月17日(月)14:45より、笠野小学校体育館で「太鼓発表会」としてご披露させていただきます。例年11月に行っていました太鼓発表会を今年はこの6月に行いますので、是非、お誘い合わせのうえ、お聴き下さい。ご来校をお待ちしています。



2校交流 宿泊体験学習 IN 能登少年自然の家

5月20日(月)～22日(水)、5,6年生は能登少年自然の家で2泊3日の宿泊体験学習を行いました。津幡町の複式教育部会として、刈安小学校さんとの合同合宿で友情の絆を深めました。心配していた雨雲は、1日目の夜間に通過し、3日ともすっきりと晴れ渡り、活動には最適でした。どこまでも広がる真っ青な内浦の海と、果てしなく広い真っ青な大空との境界、水平線を存分に眺めながら、全ての活動を思いっきり楽しむことができました。

「協力」・「感謝」・「責任」を常に意識し、5,6年生はこの体験を生かして大きく成長しました。この学びを、学校生活にそして自分づくりに生かしていってくれることでしょう。



バス遠足 1年～4年 たくさん活動できました

5月21日(火)、1年～4年生はバス遠足に出かけました。行き先は、いしかわ子ども交流センター、戸室リサイクルプラザ、戸室スポーツ広場です。いしかわ子ども交流センターのプラネタリウムでは、上演開始とともに、満天の星の世界の魅力に引き込まれました。春から夏の星座や、七夕、「夏の大三角」等、宇宙に果てしなく広がる星の世界について音楽と映像でうっとりしながら学びました。これから空を見上げるのが楽しくなることでしょう。戸室リサイクルプラザでは、各ブースを見学し、一人一人のエコな生活が地球を守ることにつながることを実感することができました。キゴ山スポーツ広場では、長い長い滑り台や大きなトランポリンで思う

存分運動できました。仲良し班で食べたお弁当はとてもおいしかったです。



笠野小田んぼ塾 市谷米 田植え体験



真っ青な大空に白い雲、黄色いタンポポが5月の風にゆれる10連休明けの5月9日(木)、今年も市谷の棚田で、農事組合法人市谷の皆様との全面的なご支援とJAかほく支部の皆様のおかげで、田植え体験をさせていただきました。

当日は、組合長の前田衛さんから田植えの仕方を教わり、早速子どもたちは裸足で田んぼの中に入りました。前田義裕さん、市谷地区の民生児童委員でもある森屋信作さん、山村修さん、山崎由起子さん、森屋文子さん、山崎祐子さん、そしてJAの皆さんのご指導とご声援により、子供たちは、早苗を3本ずつ手に取り、植えていきました。初めて体験する3年生は、足がなかなか抜けず前進に苦労しながらも、5、6年生の様子をお手本にして徐々にコツをつかんだ様子でした。

この田植え体験を通して、太陽の恵みで温められた土のぬくもりや津幡川源流のきれいな水の恵みを感じることができたと思います。

本日に至るまで、もみの芽出しや育苗、田おこしやしろかき、杵転がし等の数多くの作業をありがとうございました。今後も水の管理や草取り、肥料やり等多くの農作業が必要ですが、どうぞよろしく願いいたします。黄金の実りの秋が楽しみです。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。



第48回ツバメ調査 地域の環境を調査

ツバメ調査(石川県健民運動推進部が主催)は、石川県中の小学生が協力して愛鳥週間に実施している調査で、昭和47年から継続して行われています。今年も5月15日(木)笠野小学校でもツバメ調査に各ご家庭を子供たちが訪問させていただきました。調査のご協力ありがとうございました。

ツバメは、自然の変化を敏感に反映する生き物とされ、石川県ではツバメのことを「自然の語り部」と名付けているそうです。エサとなる虫が豊富で、巣材となる泥やワラがあり、人が住んでいることがツバメにとって重要だからです。また、ツバメは人間を、ツバメの天敵である蛇や猫から守ってくれる味方であると信じていますので、人間が出入りする所に巣を作るのです。

当日の子供たちの調査結果は、次の通りでした。

調査地区	田屋	岩崎	七黒	鳥越	山北	蓮花寺	吉倉	合計
成長の数	0羽	2羽	12羽	5羽	2羽	1羽	2羽	24羽
使用中の巣	0個	3個	18個	7個	2個	1個	2個	33個
古巣	19個	4個	9個	5個	24個	4個	24個	89個



JAさんの入り口の巣にはダンボールの支えがありました↑

↑ツバメの出入りのためガラスを1枚はずしてありました

畑の先生、ご指導ありがとうございました



今年も畑の先生（山本さん、福田さんご夫妻、岩田さん、岩本さん、松本さん、松崎さん）に5月10日（金）、15日（木）の2日間に渡りご来校いただくことができました。（その他にも畑や野菜の様子を度々見に来ていただきお世話をいただいています）

初めは、中庭一面は草が伸び放題でしたが、畑の先生方が草刈り機や鎌であつという間にすっきりと整えてくださいました。そして、耕運機で畑を耕し、畝づくりをしてくださり、10時頃には、立派な学校農園が出来上がりました。

子供たちはマルチ張りや野菜の苗植え方を教えていただき、マルチを張ると、水分保持、保温、除草、水の跳ね返りによる病気防止に効果があると学びました。きゅうり、なす、サツマイモ、トマト等苗をやさしく畝の中へ植え付け、支柱を立て、きゅうりのつるがつかまりやすいようにワラで「手」をして下さいました。サツマイモの苗が暑さで弱らないように、ワラの布団も掛けてくださいました。野菜への温かな心配りです。子供たちが地域の先生とふれ合い、楽しく野菜を植えた体験は、心温まる思い出となっていくことでしょう。暑い日でしたが本当にありがとうございました。今後の野菜の生育、そして、収穫が楽しみです。



笠野小は「石川県教育委員会指定 いしかわ道徳教育推進事業推進校」

豊かな心を育む道徳教育の研究に取り組んでいます

自己の生き方について 考えを深める子の育成

～主体的・対話的で深い学びのある 道徳授業を通して～

令和元年度、笠野小は「いしかわ道徳教育推進事業推進校」として道徳授業を通して、笠野っ子の豊かな心を育む教育にも力を入れています。10月31日（木）には、研究発表会を開催し、笠野小学校の道徳教育について広く発信したいと思います。

5月23日（木）、2年生で行った道徳の研究授業を紹介します。
この授業は、「誰にでも公平に」と接しようとする心地よさを育む授業です。
教材文「大好きなフルーツポンチ」（東京書籍2年）は次のような内容です。

主人公のぼくは、給食当番のフルーツポンチを大好きな友だちに多く盛りつけ、足りなくなったら、文句を言わないけんちゃんに、少なくすればいいと考えました。すると、「どうして しゅんたさんだけ そんなに 多いの。」とかおりさんの声がひびきました。

日常生活の中でも、相手によって行動を変えることはないでしょうか。

多く盛りつけてもらったしゅんたさんは、本当にうれしいのでしょうか。「特別にされたい気持ち」と、「みんな公平で気持ちいい」、気持ちよさの質は同じなのでしょうか。

みんなが公平な方が、自分も相手も、周りの人もみんな気持ちいいのに決まっています。「自分ばかり、ぶらんこにのっていたので、代わってあげました。」次に待っている子が、仲良しの子であろうが、文句を言わない子であろうが、「だれにでも同じように」の気持ちよさについて、考えを深めることができました。

